

# さくらピア 避難所体験

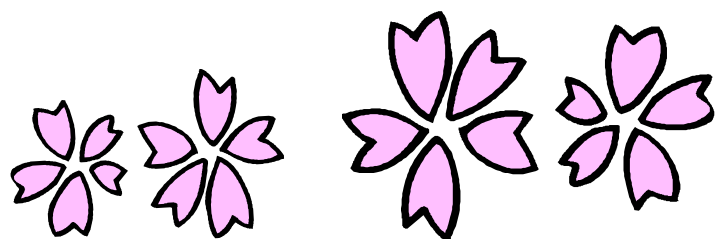
## Part2 報告書

2010年9月18日19日

夜の集い  
宿泊体験  
まとめの話  
結果と考察  
新聞記事

場所 さくらピア体育館

参加者 250名



## <知的障害者グループ>

### ①自分や家族でできること

1. 家族の集合場所を決めておく  
(初めから 避難所に行く人多すぎて会えないかもしれないので、まず家族だけで家の近くの安全な場所に集合場所を決めてそれから一緒に避難所に行ったほうが安心)
2. ガムテープとマジックペンを用意しておいて、名前、けがの状態、薬のこと、障害名などを書いておくと、第三者にも理解されやすい 手帳を持っておくとよい  
(お薬手帳のようなもの)  
(知的障害者は自分のことがうまく話せないので わかってもらう工夫をする)

### ②仲間や団体、近所でできること

1. 近所付き合いは大事
2. ふだんから 障害者がいることをわかってもらってお付き合いする
3. リーダーとなる人が2~3人くらいいると助かる  
(指示をしてくれるとスムーズに事が運ぶ)

### ③行政で取り組んでほしいこと

1. 避難所に障害や病気の人専用の部屋を作ってほしい
2. なかなか みんなと一緒にでは迷惑をかけた、パニックをおこしたりして 一般の体育館では生活ができない
3. 他の方々にも、そのことを理解してもらえよう事前にアピールしてほしい
4. 大人を対象にした福祉勉強会などをやってほしい

## <身体障害者グループ>

### ①自分や家族でできること

1. まずは自分の部屋の整理、整頓  
(どこに何があるかわかるようにしておくまた避難路に物を置かない)
2. 要援護者登録をしておく  
(せっかく作ってある登録制度を活用しよう)
3. 担当地区の民生委員を知っておく  
(地域によっては お付き合いがない人もいます)
4. 必要と思われる自分の個人情報を公開する

### ②仲間や団体、近所でできること

1. 仲間で携帯番号は知らせあっておく
2. 日頃から隣人に声をかけておく
3. 災害に対する心得を、時々喚起する

### ③行政で取り組んでほしいこと

1. 最初から入れる要援護者用避難所を設けてください
2. 民生委員の方にもっと訪問してもらいたい

### <聴覚障害者グループ>

#### ①自分や家族でできること

1. 書くもの（ペン等）を用意
2. 家が倒壊した時のために、枕元に笛を用意
3. LEDを用意する（話せないなのでレーザーライトで合図して呼ぶ）

#### ②仲間や団体、近所でできること

1. 近所の人たちと仲良くする
2. 各地域にいるろう者と通訳者の確認

#### ③行政で取り組んでほしいこと

1. 民生委員を紹介してほしい  
（自分の地域の民生委員が誰だか知らないろう者が多い）
2. 消防や防災対策関係の人たちにろう者を知ってほしい  
（聴覚障害者のことをもっと理解してほしい）
3. 聞こえないので、いろいろな情報を目で見てわかるようにしてほしい

### <車いす利用者グループ>

#### ①自分や家族でできること

1. 防災グッズを用意
2. 避難場所を家族で最終的におち合う場所を決めておく
3. 家具の転倒防止
4. 通路に物を置かない
5. 風呂水を朝までためておく

#### ②仲間や団体、近所でできること

1. 「我が家は無事です」という大きな紙を掲示する
2. 連絡網の整備
3. 隣近所に声かけをする

#### ③行政で取り組んでほしいこと

1. 障害者（児）が直接避難できる体制 → 養護学校、福祉施設等
2. 要援護者支援事業登録制度の「ひとり住まい」という条件をはずしてほしい
3. 避難所に行けない人にも、食料などの配給をしてほしい
4. 第一避難所に洋式トイレを作してほしい

## 18日 講演要約

講師 (社)神戸市手をつなぐ育成会 理事長 霧島明美 理事岩井史子

### 1 阪神淡路大震災DVD 視聴

地震の威力と被害、大火災、難しい水の確保 神戸では電気、ガス、水道のライフラインのうち一番長く困ったのは水だった。避難所や学校の生活など 映像をとおして改めて被害の大きさが伝わってきた。

### 2 そのとき、私たちのまわりの知的障害者と家族は…

ハード面、物理的なものは復興がわりと早かった。直下型の地震は被害は集中していて神戸の場合は 近くの大阪がほとんど被害がなかったので、大阪初め全国から本当にたくさんの方が助けに来てくれた。知的障害の子たちも地震直後は親もびっくりしたし子どももびっくりしておとなしかった。

心への影響はむしろそのあとしばらくして 徐々にあらわれはじめた。

ある家族は いつも通っている養護学校にいったみたが そこには近所の方がたくさん押し寄せていてもう場所がなかった。養護学校は障害を持っている人専用にしてほしかった。

ある家族は 障害児をもつ3家族で学校に避難した。学校が配慮して保健室をその3家族に提供してくれたが やはりいろいろ不公平だと意義を唱える人もいてもう2家族一緒になった。案の定気まずい状態になり また移動することになった。

震災後電車で全く電車に乗れなくなってしまった人もいる。

安否確認も地震直後は電話もなく避難所に確認に行くしかないので会長を探した。3番目にいった避難所ノートに会長の名前があった。会長は自分の家がつぶれたのに 地区の会員の安否確認に走り回っていた。どこかの団体に属していれば行政より早く安否確認が出来、情報も入る。自分たちがいつも会議を開いている学校や会館はつぶれたり避難所になっていたりして会議を開く場所を探すのに苦労したが、すこしはなれた被害の無かった地域の作業所を拠点として 機関紙の発行や安否確認の活動をした。

でも遠くの親戚に避難してそのまま神戸に戻ってこなかった人もいる。

食糧や救援物資は避難所にはたくさん届く。でも事情で避難所に行けない人の家には本当に何も届くシステムがない。障害ゆえに自宅から動けない人のために救援物資が届けられるルートが必要だと思う。

大事だなと思うことは 何かが起こった時のお母さんの態度。そのとき子どもに動揺をみせないように「大丈夫だよ」と笑顔でいられるように頑張ってもらいたい。もちろん内心は動揺しているがそれは子どものいない場所で話せばいい、その時の親の表情や態度がのちのちの立ち直りに大きく影響する。

それから 役員もみんな被害者、自分のところに安否確認に役員がきてくれればそれは感謝するのはいい。でも動けない事情の役員もいるので「あっちの役員は来たけどこっちの役員は来ない」などと役員を責めることは決してしないでほしい。

今日 お渡しした資料のなかに「なだびとさぼーと手帳」があります。私の住んでる区のものではないが これをみていい物作ったな私の区でも頑張って作りたいなと思っています。つたない話で申し訳ありません。何かひとつでもお役に立てば幸いです。(文責 本田)

## さくらピア避難所体験アンケート宿泊者アンケート まとめ

2010, 9, 19

さくらピア避難所体験（宿泊）の参加34名      アンケート回収20名  
初めて 10人      ・      2回目 10人

### ★体育館の様子はどうでしたか

- ビニールシート etc、小さな音でも響きますね
- 床フラット面からの立ち上がり困難の方がみえました
- 今回はゆとりのあるスペースでしたが、大災害が発生したらどうなるのか？受入れ可能な人数は？
- 人が集まると暑かった。寝苦しかったです
- 100～150名くらいの避難所運営の体育館の広さで限界だと思いますが、空調設備等が気になりました
- 希望者だけでもシャワーが使用出来れば、また災害時の運営につなげることができると思います
- 穏やかな気持ちで宿泊させていただきました
- 昨年より暑かったです。ロビーで話をしている人の声が気になりましたが、いつの間にか眠ってしまい、朝までぐっすり寝てしまいましたので、他の方の様子はわかりません。朝方もっと冷えるかと思いましたが、ちょうどよいくらいでよく眠れました
- 思っていたより、楽だった
- 楽しかったです
- 気温が高く、不眠気味な方が多かった
- 床が硬くて、腰が痛かった
- よく眠れた。少人数の為静かだった
- 夜、昨年に比べれば静かだった
- 広々としていたが、声が反響しているのが気になった
- 大変よかった
- 4S（整理、整頓、清掃）はOKです
- 思っていたよりも心、気持ちが楽でした
- 下が痛くて寝ていない。寝返りがうてない
- 今年は暑かった、少し蒸し暑かった など3名
- やはり小さな音でも響く
- 去年よりも人が多く、人の動き気配に敏感になって、寝相を見られたくないと目が覚める
- クーラーが切れてからは暑かった
- 途中で目が覚めてしまった
- 人が少ないのでゆったりと場所があり助かった

## ★さくらピアに避難するとしたら どんな設備がほしいですか？

- 調理室の拡大、調理実習室兼食堂、多くの食事を作る厨房 など4名
- シャワールームの設備、入浴施設 など3名
- シャワートイレの設備 など3名  
常日頃利用されている皆様は会館の様子が理解されており、混乱が少なかったと思います。
- 障害者、要支援者避難所9か所の設備は充実しているのか気になりました
- 洋式のトイレがほしいです など3名
- 和室の休憩室（多様に使用）
- 毛布、マット等の設備の充実、確保
- 自分はマットを持って行ったので床の硬さは気にならなかったのですが、ないと辛かったかもしれせん
- うちわがあると、いくらか暑さがしのげるとおもいます。
- 1階に洗面所とトイレの数を増やしてほしいです
- 障害者家族で過ごせる個室
- 手話通訳者がいてほしい、手話通訳者を呼べるシステムがあるといい
- ついたて（目隠し）
- このままでよい
- 簡易トイレを近くに置いてほしい
- クッションの良いのがほしい
- 体育館内にトイレ等がほしい
- 体育館では周囲の人の迷惑がかかる人は個室対応が必要
- ベッド（車いすから移動できる）

## ★他に何か気がついたことがあったら教えてください

- 集団行動を苦手とする方の居場所作り（自閉症、情緒不安定の方）
- 夜間介護支援の必要な方にサポートする場合（声なき声に）、皆様の睡眠を妨げない工夫が必要かと思います
- 視覚表示によるインフォメーションの大切さ（ルール etc）
- 屋上プールが災害時入浴支援に使えるかも
- 自助、共助を学ぶ避難所体験ができました
- 朝ごはんがとってもおいしかったです
- 今年は昨年より多数の参加者があり、避難所訓練の体験が災害時に活かされるとおもいます
- 一般の人の参加をいただくと、もっと災害時要援護者の方々の理解が広がると思います
- 豊障連事務局の方々の運営に要援護者の方々が安心して身心ゆだねていただける様子を見て、現時点では理想的な施設管理をされていると思いました
- 今回は人数が少なかったもので、トイレなど困ることはありませんでしたが、もっと多人数になれば困ることがたくさん出てくるのだろうとおもいます

- 朝食は消化の良いほうがいいと思います
- 窓が開けられるといいと思った
- ろう者の宿泊者が少ない。みんな自分には必要ないと帰ってしまう。もっと多くのろう者に宿泊体験に参加してもらいたい
- 自宅からさくらピアまで遠いため、もし災害が起きたら地元の避難所に行くと思う
- 食事はとろみのあるものも用意してほしい
- (実際の災害時に) さくらピアに東方面からのボランティアが来る可能性があるのでは
- 行政の人にも宿泊体験に参加していただきたい
- 災害時にリーダーになれる人を地域に多く養成してほしい
- たとえ1日でも地域の避難所で過ごすことは困難だと気付いた
- トイレ問題は深刻、すぐ対応できるように(水が出ない状態)
- 2回目ということで少し落ち着いて過ごせたかとおもいます  
(初めてのことにはパニックになりやすい)
- トイレの洗面の水の出が悪い

## 参考

宿泊者34名 障害種別 (当事者21名 その他13名)

知的障害〈ダウン症重度、知的障害軽度、中度〉

脳血管障害

大動脈弁閉鎖不全症による心臓機能障害

聴覚障害

下肢障害

上肢障害

内部障害

脳性マヒ

肢体脳性マヒ重複

上記のうち 車いす利用者 4名

食事介助、排泄介助を要する

2名は 親が介助(同性介助 異性介助)

2名は ボランティアが介助〈渋茶倶楽部〉

酸素濃縮機利用者 1名

無呼吸症候群患者のための呼吸補助具利用者1名

「さくらピア避難所体験」に寄せる思い等

精神障害者地域家族会くすのき会

1. はじめに：日本の精神障害者数は全国で約3百2万8千人、と厚労省が公表していることから換算して豊橋市内在住の精神障害者数は約8千人と推定できますが、平成22年9月に豊橋市が「第2期豊橋市地域福祉計画の策定について・中間報告」で公表された、「精神保健福祉手帳の所持者数」は、僅かに1,581人となっています。他の身体障害者（児）及び知的障害者（児）の手帳所持者数と比較した場合、他障害にあっては障害者（児）のほぼ同数の方が障害者手帳を所持しているのに対して、精神障害者の場合は推定障害者数の約20%に止まっています。このことは、今も相変わらず日本社会において何か事件がある度にメディアが精神障害者に限ってのみ「精神科医療機関等への通院・入院歴」を併記し続ける差別的扱いが存在すること等も、手帳所持者数が増加しない大きな要因の一つとなっていることを物語っています。従って、このような差別的扱いが現存している社会環境下においては、精神障害者自身が地域で開催される各種行事等に積極的に参加すること自体が、「まだまだ困難な状況にある」ことに関して、他の障害者団体及び地域の皆様のご理解をいただきたくお願い申し上げます。

- ①自分でできること：精神障害者は、精神疾患と言う「病気」を有することから、非常時にあっても「通院と服薬」が不可欠です。従って、万一に備えて日頃から「最低であっても3日分、出来れば1週間分の薬」と、投薬時に提示される「処方内容説明書」を身近な所で保管すること。
- ②近所や団体で出来ること：障害特性から見て一般的には、可能な範囲において家族を中心とした近隣間の対人交流を深める努力を心掛けることが最善と考えます。
- ③行政に取り組んでほしいこと：豊橋市医師会の中に「精神科医会」がありますので、非常時の際の「診察と投薬」機能を確保するための具体的対応策を策定し、広く市民に周知徹底を図ること。



ゲストコメンテーター 市役所障害福祉課長 井口健二 社会福祉協議会事務局長 松井晴男

民生委員、児童委員連絡協議会副会長 高柳致子

宿泊体験の感想と昨夜の話し合いのまとめの追加があれば発言してください(一部まとめと重複します)

## 身体グループ

・私の携帯酸素ボンベは 今9時40分現在 あと1時30分くらいしかもたない。昨日朝9時過ぎに携帯ボンベの替えを2本持ってさくらピアにきたが 丸一日いると残りわずかになってしまった。災害時もボンベがなければ困るし 酸素濃縮機が避難所で使えるのか不安である。

行政で取り組んでほしいこととして最初から入れる福祉避難所を設置してほしいです  
(神戸にはある)

- ・体育館の床は腰が痛かった。ベッドだとすぐ立ち上がれるが床だと立ち上がるのが難しい
- ・広々としたスペースに寝れたので楽だった。有事の時はこんな感じでは暮らせないと思う。

## 知的グループ

- ・昨日の講演は同じ立場の親として胸のつまる思いだった。(健常者からの無理解な言動)
- ・体育館の暑さについてはうちわを持参したので暑さが和らいだ
- ・やはり他の人がたてる音は気になるものと思った
- ・一晩なら大丈夫だが複数の日にちになると不安
- ・障害特性を一般の人に理解してほしい
- ・障害者専用の部屋の確保や福祉避難所は障害者を特別扱いしていると受け取らず 周りに迷惑をかけたり不愉快な思いをお互いしないために必要な事だと知ってほしい  
(一般の大人を対象にした福祉勉強会の実施の必要性)

## 聴覚障害グループ

- ・消灯の時間が早く、普段と違うのでなかなか寝付けなかった。また朝も早く目覚めてしまった。あまり眠れなかった。
- ・講演、訓練、話し合いは手話通訳が派遣されていたが夜は手話通訳者がいない状態になった。本田さん(手話ができる職員)がいるのでどうにかなったが他の避難所ではどうなるか心配。目に見える情報がほしい
- ・手作りで出来る防災グッズは勉強になった。今後はチャレンジしてみたい。

## 車いすグループ

- ・今回初めて障害を持った娘と家族3人で参加した。晩、発作がでてしまった。朝はおもらしをしてしまった。実際に災害が起きたら大変なことになると思う  
今回は周りの人たちの援助があり大変助かった。  
アイスノン、クッションベット(マットレス) ←ベッドで生活している人が多いので必要
- ・2回目の参加。息子はトイレの回数が多く昨年トイレに何回も行くのが大変だったので今回は尿瓶を持って参加した。周りの方には申し訳ないと思うが体育館で尿瓶を使って処理した。
- ・必要なものは自分で準備することも大切。今回はマイスプーンも持参した。

## 豊橋防災ボランティアコーディネーターの会

- ・昨年に引き続き本当に貴重な体験ができた。
- ・さくらピア避難所は思いやりがあるから過ごせる。
- ・今後一般の方にも理解してもらうために合同で避難所体験ができるとよい

## 豊橋障害福祉課 井口課長

- ・災害は地震だけではない（火災、たつまき）豊橋では川の増水もあった
- ・訓練が終わった後は緊張感もあるが日々が過ぎると薄れてしまうが、明日今日起こるかもしれないという気持ちで備えることが大事。
- ・話し合いにでたように、自分にあったグッズを準備するなど自分でできることは自分です。
- ・要援護者支援事業についての要望があったが、障害の等級はなし、ただし原則一人暮らし元気な家族の居る場合は登録不可となっているが、しかし家族がケガをする場合もある、解釈がそれぞれで難しい面もあるが 今ある制度は上手に使うことで登録して欲しい。
- ・このような避難所体験事業を障害当事者の豊障連が実施していることは素晴らしいことだと思う さっきさくらピアの事務長から「高い設備の要望は市へ」とお願いされましたが、皆さんが何が欲しいのか是非 教えてください。防災VCの方に見せてもらった階段降機も今度の訓練で実際にデモンストレーションしてもらいたいと思います。

## 社会福祉協議会松井事務局長

- ・昨年の報告と比べてみたら、第1回は、不安をだして、～してほしい等の御願い意見が多かった 今年整理されより具体的に自分たちが必要なこと、やれることの話合いがされている 避難所体験が充実して 積み重ねられてきていてすばらしいなと感じた。
- ・しかし今みなさんの発表や昨夜のまとめを読んでいると、障害種別により必要な支援が違うためにトータル支援は難しいと思った。障害特性のニーズに合わせた支援の在り方を掘り下げて対策を検討する必要があると思う。
- ・福祉避難所にはじめから行きたい（現状ルールでは、第一・第二避難所→福祉施設→福祉避難所）豊橋全体を考えると福祉避難所に行き着くのは難しい介護福祉の方式を取り入れるとよいかもしれない
- ・今回は対策本部がもうできあがった状態での集合だけれど、実際には人が集まってから本部ができて活動がはじまる。ボランティアにどんなことをしてほしいか、伝えることも大事。個別の課題をもっと上げてほしい。神戸の参考資料にいただいたこの「なだびとさぽーと手帳」はとても参考になりますね。いずれにしてもこのさくらピア避難所体験は非常に貴重な事業だと思うのでこれからも続けてください。

## 豊橋民生委員児童委員連絡協議会 高柳致子

- ・昨日の講演会で阪神淡路大震災のDVDをみて改めて当時のおそろしさを痛感した。また避難所でたくさんのボランティアの方が働いてくれている姿をみて感謝の気持ちでいっぱいになった 私は以前の三河大地震などを経験している。災害時には障害者の方々は本当に大変だと思うのでこのような行事を開かれ、宿泊もされて勉強されてみなさんに敬意の意を表します。

## さくらピア避難所体験について 結果と考察 2010, 9, 29

延べ参加人数239人(障害者111人)

### ① 障害者家族体験談

神戸市から育成会の会長を招いて体験を講演していただいた。

講演内容の詳細は 別紙要約のとおり。90名の参加

「阪神淡路大震災記念・人と防災未来センター」制作のDVDで震災後の水不足、避難所の問題、ボランティアの活動などの映像をみて改めて災害の恐ろしさを学んだ。DVDに字幕がないので手話通訳がスクリーン横に立った。

講演の中で以下の3点は 豊橋市のこれからの災害弱者対策を考えると非常に参考になると思われる。

1障害児をもつ家族が養護学校に行ったら 既に近隣住民でいっぱいに入る場所がなかったこと。

2学校の配慮で 知的障害者の子を持つ3家族に保健室を提供したら、他の人から不満がでて、保健室にもう2家族増え結局は気まずくなってしまったこと。

3安否確認は行政より団体に入っている人のほうが確実であったこと。

この講演の教訓を是非 行政施策や団体活動、に生かしていただきたい。

### ② 避難訓練 初期消火 地震体験

前年と同じく2階談話室から出火したことを想定して桜ヶ丘公園に避難し 車いすの人は階段を降りられないのでエレベーターで降りた。身体障害者だけでなく高齢者も多いので避難には時間がかかる。繰り返し訓練をし、職員の誘導がなくても各自が避難路からスムーズに逃げられるように周知する必要がある。また22年度さくらピア消防設備契約業者である常友防災の社員も訓練時には契約書にあるとおり職員の防災訓練指導者として参加し初期消火の指導もしてくれた。福祉施設に出入りの業者は、その金銭的・物理的条件だけでなく、障害者に対する理解、対応も鑑みて契約業者を選任するのが望ましいと思われる。地震体験車と初期消火は去年と同じだが、今年はいじめて参加した人も多いので勉強になった。PC教室や、会館利用者も避難訓練には参加した。

### ③ 体育館での話し合い(内容は 別紙 9月19日に配布済)

準備の段階で第2回の話し合いがマンネリ化して、不安の吐けぐちだけで終わってしまわないように昨年ではた不安は資料に記載した。そのうえで今年の話し合いは災害に備えて①自分ができること②地域や団体でできること③行政に取り組んでほしいことと課題を3つに分けグループごとに3枚の大きな紙を渡し それぞれに3つぐらいずつ出しやすいように番号だけ振っておいた。その後障害別に話合った意見を発表した。

または防災VCの会からリサイクルでつくる防災グッズの展示説明があり、カタログだけだとなかなか分かりにくいものも 実物や作り方を見てみな熱心に耳をかたむけていた。常友防災より避難袋の中身の展示、また会館の常備してある簡易トイレも組み立てた。障害特性に合わせて備えるとき、大いに役立つ情報がたくさんあった。

## ④宿泊

参加者のアンケートは別紙

昨年より10名多く 34名が宿泊した。

うち 障害者が21名 障害内訳 聴覚障害2 重度心身障害4 内部障害2  
知的障害6 身体障害 7

さくらピア体育館は7月にクーラーがついたが 災害時には停電している可能性が大きいので 話し合い終了後 9時半にクーラーをとめた。

その後 館内の気温が急に上昇したので 体温調節がうまくできない40歳の重度心身障害の女性が発作をおこした。家族の方は慣れているので「アイスノンを貸してください」と言われたが さくらピアの事務所にアイスノンはなかった。ちょうど夏祭りのかき氷の残りがあったのでそれを砕いて冷たいタオルで顔や脇を冷やしたら熱が下がり 救急車を呼ぶような事態にならなくてよかった。重度身体障害者は体温調節ができない人も多い。体験事業は大事だが、そこで実際に重篤な状態になったりすることのないように配慮しなければと痛感した。

車いす利用者が4名で 2名は親の介護 2名は単独での参加で防災VCの方々が食事や排泄介助をした。高齢の母親が大人の障害者の排泄の介助をするのは体力的にきつくなってくる。今回2回目の参加の母親は昨年の反省からトイレが近い息子さんの夜中の排泄は尿瓶を持参して処理したとのことだった。周りで寝ていた人はどう感じただろうか。

実際の避難所開設担当者は障害者ニーズを聞き出して事前に対策が指示できるように準備すれば 周りの人とのトラブルを最小限にとどめることができるのではないか。

たとえば 避難者が紙オムツ利用者なら オムツを換える場所、オムツの捨てる場所明確にしておく。奇声を発するならできるだけストレスの少ない場所を確保する。身体障害的理由で体育館の床に眠れないならマットレスを優先的に支給する。電気が必要なら(今回は酸素濃縮機、と呼吸補助具)コンセントの近く、延長コードの通り道を確保し、コードが抜けたり歩く人がつまづいたりしないように養生しておくことを指示するなど 数え始めればきりが無い。避難所開設者がその「気づき」を持つ人材であるためには、さくらピア避難所体験は非常に貴重な体験学習の場であるといえる。市の担当者もぜひ参加したらよいと思った。

会館の安全管理として 避難所は多くの人が入り出すため、時間も不規則になり、搬入口の開放や自動扉が手動になったりして 管理点検がむずかしくなる。職員が怪我をして出勤していない場合も想定される。不特定多数の人が入り出す場合、不審者の侵入や知的障害者の無断外出の事故などを未然に防ぐために、施錠確認の時間、現状確認の指揮経路を明確にし 確認時間を紙に書いて張っておくなどの対応が求められるだろう。

## ⑤朝食

夕食は各自ですませ朝食のみの支給とした。メニューは アルファ米(五目御飯)保存水 豚汁。昨年の教訓をもとに今回は乾燥剤を取ることに、かきまぜること、空気を出して密封することを気をつけて作ったのでおいしくできた。

ご飯の中に添えつけの小さなプラスチックスプーンでは「手が不自由で食べられない」と申し出が

あり事務所のスプーンを貸し出したが、事務所には5本ぐらいしかないので、割りばしなどが使えない障害者はマイスプーンを避難袋に入れておいたほうがいい。実際に今回2度目の参加の障害者の方はマイスプーンやコップをもって参加した。非常食にとろみのあるもののストックも欲しいとアンケートに記入した人もいた。食事介助を右側からするか左側からするか また車いす通路の確保 熱湯の扱いなどここでも気づきがあるかどうかで食事の雰囲気が変わるだろう。

## ⑥まとめのはなし(参加者の意見は別紙参照)

それぞれの参加者が防災をテーマに話すきっかけとなり意義ある企画を実行できた。井口課長からは「当事者発信の防災企画で非常に価値がある」社協の松井局長から「前向きな積み重ねが感じられる」との言葉をいただいた。

また 今回精神障害者関係の宿泊参加はなかったが 障害特性と今の社会では集団行事には参加しにくい状況があるのも事実である。豊障連はさまざまな障害者の意見をまとめていく責務を担っているので 体験に参加しにくい障害者の意見を反映させる手立ても考えていく必要があると思った。

## ⑦検討事項

- 1、 他の福祉避難所との連絡体制、検討委員会のようなものが必要ではないか  
→避難所体験の案内を福祉施設にしたが 参加はなかった。福祉事業所防災ネットワークのようなものができるといい。福祉政策課や防災対策課、の方の視察がないので  
来年はぜひ参加して行政に反映させてほしい
- 2、 社協の防災VCの方々との情報交換、合同学習  
防災VCの方は 展示、紹介、台風の大型紙芝居、障害者介助、会場設営など  
とてもよく協力してくれた。VCの研修に実施報告をしたらどうか。
- 3、 次回に向けての準備  
前例のない取り組みなので指定管理に無理の無い範囲で少しずつ実績を積み重ねていく方針である。3回目は災害本部の設置実習として市から担当者が本部を開設する。宿泊者は避難所カードに記入して援助ニーズをわかりやすく書く練習、ボランティアは個々の技術やできる仕事を記入する、防災VCはそれをコーディネートするなどの企画を関係者と共同で準備できたらいいと思っている。
- 4、 災害時要援護者登録についての理解促進と普及  
要援護者登録の「ひとり暮らしについて」の条件緩和の要望がでていた。  
重度身体障害者は実際には避難所に行けない場合も多い。「移動困難者」として登録申請するなど具体的に動くことが必要とされる。
- 5、 看護師の動き 配置場所の検討  
今回は看護師はトレーニング室に配置した。発作の時は処置してもらって医療従事者の参加は必要不可欠だと実感した。 夜間巡視の時間を看護師、管理者等で打合せして避難者の安全確認を計画的にする。

## ＜さくらピアの福祉避難所としての機能に対する物品面不安項目＞

- 1、車椅子の方の避難誘導 →22年3月 布担架 購入。また今回防災VCより9,11のとき車いすの方が実際に避難した階段降機の紹介をしていただいたので、次回の訓練時にデモンストレーションしたい
- 2、簡易照明器具がない。今あるのは夜間巡回用の懐中電灯 2 本のみ
- 3、ラジオがない
- 4、「避難所用物品保管庫」が豊橋市災害対策本部の名前で置かれてあり古いろうそく 2 本とパトライト1、ろうそく用ランプ1が入っているが これでよいのか？  
またスコップなど救出用資機材の配備もないので災害対策本部に確認していただきたい
- 5、救急用品もプール用のだけできちんとしたものはなし  
三角巾等もない
- 6、洋式トイレが足りない(利用者の声)多目的トイレを増設予定
- 7、避難所配布物品 屋上のプールの水をトイレなどに使えると思うがバケツの配備がない。  
街中の貯水槽に配備されているバケツのようなものをプール脇に配備したい。

## 避難所体験終了後事務所で対応したこと

- ① アイスノンの購入。急な発熱などはこれからも会館利用者に起こるかもしれないので 翌日購入した。
- ②トイレに流せるウェットティッシュの購入大人のオムツ利用者が緊急時に利用の可能性あり。
- ③壁新聞による啓発
- ④関係者への報告
- ⑤非常時、行事等の時の勤務交代時の報告連絡についての確認
- ⑥報告書の作成(音声コード付き) 理事会への報告

## 終りに

指定管理者としてさくらピアの管理運営を考えると 実際に災害が起きたら職員が会館利用者のためにできることは本当に微々たること、それどころかもしかしたら被災してさくらピアに来ることさえできないかもしれないのである。

だが避難所体験事業をとおして 一人ひとりの障害者、家族、関係者が何か一つでも障害者の防災について 気づき備えるきっかけになれば 幸いである。

さくらピア避難所体験 企画責任者 事務長 本田栄子